

授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服 装 造 形 論 I A	・服飾造形基礎知識の習得(縫合の基礎、作図の基礎理論、体型観察) ・各アイテム製作を通し服作りの技術と理論の習得(服の構造、デザイン表現、作図理論と方法、仮縫い補正方法、素材扱い、縫製方法)	1・前期	90	3	○			○		○		
○			服 装 造 形 デザイン I A	・バザー作品製作を通しボランティア精神の育成と既製服としての縫製方法(刺繍法)、検品、販売までの流れを学ぶ	1・前期	30	1			○	○		○		
○			服 装 造 形 パターン メーカー ング I A	・立体裁断基礎知識の習得(ボディ・布準備、ドレーピング・マーキング・ドラフティング)	1・前期	60	2			○	○		○		
○			服 装 造 形 ソーイング I A	1. 服装造形基礎 2. ギャザースカート 3. スカート 4. バザー作品 5. パンツ	1・前期	120	4			○	○		○		
○			服 装 造 形 論 I B	6. 体型研究 7. シャツブラウス 8. ジャケット 9. ワンピースドレス 10. 立体裁断の基礎	1・後期	90	3	○			○		○		
○			服 装 造 形 デザイン I B		1・後期	30	1			○	○		○		
○			服 装 造 形 パターン メーカー ング I B		1・後期	60	2			○	○		○		
○			服 装 造 形 ソーイング I B		1・後期	150	5			○	○		○		
○			服 装 造 形 ドレーピン グ基礎		1・後期	30	1			○	○		○		
○			自由研究	・服装造形に関わるテーマに基づき各自の目標に合わせ研究する ・個々の能力に合わせ復習・応用することにより、既習細目におけるレベルの向上と知識・技術の応用発展を目指す ・発表会(展示)を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う	1・通年	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服 飾 デ ザ イ ン 論 I	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			フ ァ ッ シ ョ ン デ ザ イ ン 画 I	ファッションデザイン画における基礎的な技術と、オリジナルデザインの表現方法の基本を習得する。	1・通年	60	2			○	○			○	
○			服飾手芸	服飾手芸全般における基礎知識及び技術を基にして応用発展できるように、素材・テクニク・色の組み合わせによってクリエイティブな力を養うことを目標とする。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			西洋服装史	古代から現代までの西洋における服飾文化の変遷を学ぶ。服飾が、それぞれの時代の社会構造や美意識、文化の潮流といかに深くかわっているかを中心に理解させる。また、各時代の服飾が、どのような過程を経て形成されてきたかの歴史を知ることが、現代ファッションの理解や今後のデザイン制作などにも役立つことを確認させたい。	1・通年	60	2	○			○			○	
○			ア パ レ ル 素 材 論 I	アパレルの主素材である布地の種類と性能の基本を理解させ、応用力を養わせることを教育目標とする。 布地を理解し使用するには、その構成要因となる繊維、糸、織、編、レース、染色、加工などの各々の種類、性質などを複合的に捉える必要があるため、繊維から系統的に授業を展開する。講義に演習・実験・実習を加えることで理解を促し、実践的なものにする。レベルは、関連授業及び卒業後に生かすための礎を得られる設定である。	1・通年	60	2	○			○			○	
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながるような描写とその楽しさを再認識する事とあわせ、基本的描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・後期	30	1			○	○			○	
○			就 職 対 策 講 座 I	・社会人と学生の違いを認識し、将来の方向性を決めるきっかけを作る ・職業人に求められる「人間力」の向上を促し、実践教育を通して「就職力」の強化につなげる	1・後期	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形論ⅡA	1. 立体裁断基礎・スローパー展開 (前期)・半身ピン仕上げ(文化ヌードボディ)・各自デザイン発想し、立体裁断で型出し、実物制作	2・前期	30	1	○			○		○		
○			服装造形デザインⅡA	2. 立体裁断Ⅰ 身頃 胸ぐせダーツのバリエーション ドレーピング実習 (文化ヌードボディ)	2・前期	30	1			○	○		○		
○			服装造形パターンメイキングⅡA	3. 一重ジャケット デザイン・パターン・実物製作・レポート	2・前期	60	2			○	○		○		
○			服装造形ソーイングⅡA	4. 子供服(バザー作品) デザイン・パターン・実物製作・レポート	2・前期	60	2			○	○		○		
○			服装造形論ⅡB	5. デザインジャケット デザイン・パターン・実物製作・レポート	2・後期	60	2	○			○		○		
○			服装造形デザインⅡB	6. コート デザイン・パターン・実物製作・レポート	2・後期	60	2			○	○		○		
○			服装造形パターンメイキングⅡB	7. 立体裁断 ジャケット 工業用ボディでのドレーピングからパターンへ	2・後期	60	2			○	○		○		
○			服装造形ソーイングⅡB	8. 立体裁断Ⅱ ブラウス・衿 ドレーピング実習(文化ヌードボディ)	2・後期	60	2			○	○		○		
○			服装造形ソーイングⅡB	9. 卒業制作 フォーマルウェア デザイン・パターン・実物製作・レポート	2・後期	60	2			○	○		○		
○			服装造形ソーイングⅡB	10. マタニティウェア・ベビーウェア・ワーキングウェア・スポーツウェア	2・後期	60	2			○	○		○		
○			服装造形ソーイングⅡB	11. グレーディング 特講の説明後の実習	2・後期	60	2			○	○		○		
○			服装造形ドレーピングⅠA	12. 卒業制作ショー準備・立体裁断 1/2ボディでのドレーピング モードコピー	2・前期	60	2			○	○		○		
○			服装造形ドレーピングⅠB		2・後期	60	2			○	○		○		
○			服装造形工業パターンメイキングⅠ		2・後期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			量産技術実習Ⅰ	シャツの製造実習(一人が全行程を賄う“丸縫い作業”)を通して、シャツ生産指示書(仕様書、指図書、工程分析表、作業標準書)の役割(生産時間の短縮や品質の均一化や作業者の安全 等)について理解を深めることを目標とする。また、工業生産機器の取扱いと安全な基本操作についても学習し、限られた授業時間(納期:D)の中で、出来栄え(品質:Q)にバラツキが生じないように、量産的な考え方の重要性も認識させる。	2・前期	30	1			○	○			○	
○			生産管理概論	アパレル産業界の業務内容を知り、服を製品としてとらえる観点から、生産における重要事項であるQ(品質)C(原価)D(納期)ついて認識を向上させる事を目的とする。生産活動における情報伝達手法として、「縫製仕様書」「加工・裁断・芯貼り指図書」を作成する力を身につける。 また工程分析、標準化の基礎を学習し、製造の実務の視点からもQCD実現に向けた取り組みについて考察する能力を養う。	2・前期	30	1	○			○			○	
○			服飾デザイン論Ⅱ	1年次に学んだ基礎をもとに、デザインや色彩の創造過程の習得と演習を通して、より豊かな感性と表現力を伸ばし、独創的な創作活動ができる人材の育成にあたる。	2・通年	60	2	○			○				○
○			ファッションデザイン画Ⅱ	デザインワーク上で即戦力として使えるデザイン画を習得する。	2・通年	60	2			○	○			○	
○			アパレル品質論	アパレル製品の企画、設計、生産、流通における品質管理の知識を習得させるために以下の①～③について講義、演習、実習、見学を通して理解させる。 ①素材の特性を把握する為の物性試験や製品の実用性能を管理するための各種試験方法、評価法、基準値 ②アパレル製品の取り扱い ③アパレル製品に関する法規制(表示関連、安全性関連)や規格	2・後期	30	1	○			○			○	
○			服装解剖学	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	2・前期	30	1	○		△	○			○	

授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッションビジネス概論	ファッションビジネスの基礎知識の理解する。日本の社会経済と消費者の変化、ファッション業界の変遷を知ることで、時代対応について理解する。ファッション産業構造の把握と専門知識の把握による職種選択のための知識を深める。アパレル産業におけるブランドビジネスの概要と特性を理解し、ブランドプランニングの組み立て、市場マーケティングの実践実習を行う。	2・後期	30	1	△	○	△	○			○	○
○			グラフィックワーク基礎	(Illustrator/Photoshop)の基本操作を習得する中で、多様な表現方法を身につけ、クリエイション全般に生かせるように基礎を固める。	2・通年	30	1			○	○		○		
	○		服飾手芸(選択科目)	1年時に習得した服飾手芸全般における基礎知識を基に更により高度な技術を習得してクリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	2・半期	30	1			○	○		○		
	○		ニットイング(選択科目)	ハンドニットの一般知識(素材・道具・編み地)について学ぶ。棒針、鉤針の編み方の理解と作品作りの知識を習得する。ファッションアイテムとしてコーディネートに活用できるニット小物を製作する。	2・半期	30	1			○	○		○		
	○		絵画・イラスト(選択科目)	対象を素早く描くことによりモデルのプロポーションや動き、服の変化などを大きくとらえ、表現する力の習得を目的にする。上級学年ということで「デッサン」的なものも題材に含め、絵画の様々な技法を紹介し体験させるようにする。	2・半期	30	1			○	○			○	
	○		CAD基礎(選択科目)	アパレル産業における設計プロセスを認識し、アパレルCADを利用した設計方法に対する理解を深めることを目標とする。平面作図に始まり、パターン展開、マーキングと流れ、作成したデータを活用しレポート作成をおこなう。基礎的部分の履修ではあるが、最小限の機能を活用し、最大の効果が得られるレベル設定とする。	2・半期	30	1			○	○		○		
	○		英会話(選択科目)	英会の基本的な文法を学習したレベルを想定し、英語をツールにしたコミュニケーションをとれるようにさらに英語の運用力を高めることを目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通してコミュニケーションには何が必要かを体感できることを目指す。ファッションを専攻している学生なのでファッションに関する語彙なども導入する。	2・半期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		販 売 実 務 (選 択 科 目)	・販売することの楽しさとその基本業務を理解する。 ・コミュニケーションスキルの向上。	2・ 半 期	30	1			○	○		○		
	○		ア ク セ サ リ ー (選 択 科 目)	アクセサリは装いにおける重要なアイテムであり、服作りと同様にあらゆる可能性を秘めたクリエーションである。様々な素材やテクニックを学び、体験することによって、クリエーションのヒントになる事を目的とする。	2・ 半 期	30	1			○	○			○	
	○		帽 子 (選 択 科 目)	帽子の一般常識と帽子に対する知識を深め、服飾に於ける帽子の位置づけを理解させる。トータルイメージを表現する力を養い、作品制作を通して帽子のイメージや服とのバランス感覚などを把握。	2・ 半 期	30	1			○	○			○	
	○		染 色 (選 択 科 目)	各自が手軽に服飾製作物に応用展開できるよう、身近にある道具で染色可能な数種の染色技法を取り上げ、それらを、実習を通して習得させる。さらに、レポート課題を通じて、アパレルに使用されるテキスタイルを、染色、加工の視点により認識させることを目標とする。	2・ 半 期	30	1			○	○		○		
	○		ヘ ア ・ メ イ ク (選 択 科 目)	ベーシックメイクを基本。ナチュラル～モードまで幅広いイメージのメイクのスキルを目指す。ファッションとの連動性を意識しヘアメイクの表現の幅を広げる。メイクの楽しさを実感し総合的にビジュアルをイメージできる感性を身につける。今後の創作活動の飛躍に繋がるスキルを習得する。	2・ 半 期	30	1			○	○			○	
	○		バ ッ グ (選 択 科 目)	バッグの実物制作。(3点)また制作を通して商品知識を学び、コーディネートやデザインの手法を学ぶ。	2・ 半 期	30	1			○	○		○		
	○		コ ン テ ス ト 画	コンテストに応募することにより想像力を向上させ、プレゼンテーション能力も向上させる。コンテスト用の作画テクニックを指導し表現能力を高める。	2・ 半 期	30	1			○	○			○	
	○		ド レ ー ピ ン グ 検 定 (前)	パターンメイキング技術検定試験3級合格を目的とし、パターンメイキングについての理論、基本的な平面作図グレーディング、ドラフティング、立体の組み立てまで、技術検定試験に必要とされる知識、技術を指導する。	2・ 半 期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(服飾専門課程 服装科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ドレーピング応用(後)	平面作図では表現しづらいフォルムを立体裁断で型出しすることにより、そのテクニックを習得するとともに平面作図との比較材料とする。立体を創り出す際に広い視点で形をとらえる訓練をする。	2・半期	30	1			○	○		○		
○			就職対策講座Ⅱ	就職にそなえ社会人として人間力、コミュニケーション能力を向上させることと、就職対策の実施を行っている講義と実習をすることにより、実践的な力を養うことを目標としている。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			校外研修Ⅱ	1. 日本の歴史的伝統に優れた美術・文化財にふれることにより、感性や美意識を磨く 2. 団体行動により、協調性・社会性・人間性を向上させると共に、クラスメイトとの交流を育む。 3. 事前に古美術の予備講座を受けることで、現地でより一層見聞を深める。	2・後期	30	1	○		△		○	○		
○			特別講義Ⅱ	1. 服飾関連の幅広い分野の専門家による講義を受講し、各自の幅広い知識・技術を広げる。 2. 職業意識や職域を広げ、就職につなげる。	2・通年	30	1	○			○		○		
○			卒業研究・創作	卒業制作ショー準備・立体裁断 43コマ(後期) 1/2ボディでのドレーピング モードコピー	2・後期	120	4			○	○		○		
学年合計						37科目	1,140単位時間(38単位)								
合計						56科目	2,250単位時間(75単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること		1 学年の学期区分	前期・後期
		1 学期の授業期間	15 週
(留意事項)			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			